

第49回優秀畜産技術者表彰受賞者業績概要

石井 貴茂	<p>茨城県農林水産部 畜産課 係長 乳用育成牛の初産分娩月齢の早期化に向けた7場所の協定研究に取り組み、100頭を超えるデータを主体となっており、乳生産性に影響を及ぼす育成管理要因を明らかにし、21カ月齢の初産分娩における乳生産性を高める発育曲線を作成した。</p>
片岡 博行	<p>岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 改良技術研究室 専門研究員 新たな種雄牛の作出選抜指標として「成長ホルモン遺伝子型」や「牛肉の美味しさ」を開発し、優良種雄牛の作出という長期にわたる業務に取り組み全国トップクラスの種雄牛の作出に成功するなど、県内畜産の発展に大きく寄与した。</p>
加藤 聡	<p>群馬県畜産試験場 肉牛係長 乳牛の人工授精や過剰排卵処理における性選別精液の活用技術を開発するとともに、胚移植の受胎率においても黄体ホルモン製剤の利用による受胎率の向上に貢献した。また、子宮深部への精液・受精卵移植注入器を共同開発するなど技術開発へ貢献。</p>
川原 尚人	<p>高知県畜産試験場 大家畜課 チーフ 長年にわたり、地道に乳用牛群検定の普及に携わり、検定農家や分析指導員の指導、畜産環境対策にも取り組んだほか、牛の姿勢判別による飼養管理モニタリングシステムの開発により、集団飼養管理技術の向上に貢献。また、シバ草地の短期造成方法の開発によりシバ草地普及促進に貢献。</p>
北村 亨	<p>雪印種苗株式会社 微生物研究グループ 主事 北海道における高水分牧草サイレージの不良発酵の原因を解明し、発酵品質改善のためのサイレージ用乳酸菌を開発し広く普及した。さらに公的機関との共同研究により飼料イネ用乳酸菌「畜草1号」の製品化、普及に大きく貢献した。</p>
坂瀬 充洋	<p>兵庫県立農林水産技術総合センター 北部農業技術センター 主任研究員 黒毛和種の受胎率向上を目的として既存の排卵同期化・定時人工受精法にCIDRを併用する手法を確立・普及し、この手法を定時胚移植にも発展させた。また現場に関わりながら原著論文等で積極的に情報発信している。</p>
富樫 克博	<p>山形県農業総合研究センター 養豚試験場 開発研究専門員 簡便で汎用性がある抗体検出法構築技術を開発し、豚サーコウイルス、豚浮腫病、豚ローソニア感染症の抗体検出を試み、疾病の実態解明に大きな成果をあげた。さらに、事故率低減に向けた技術指導を行う等、養豚経営の経済性向上に寄与した。</p>
前田 恵助	<p>和歌山県畜産試験場 主任研究員 エコフィードを用いた豚肉や鶏卵の高品質化技術、未利用有機性資源を用いた堆肥化技術について研究を行い、技術の普及・指導に努めた。また、イノブタ飼育技術の普及・指導により地域活性化に貢献した。</p>
三木 一嘉	<p>長野県畜産試験場 飼料環境部 主任研究員 多くの県で奨励品種に指定されている飼料用トウモロコシの「タカネスター」等多くの新品種の育成に貢献したほか、耐倒伏性選抜法、茎葉消化性の評価法、赤かび病や根腐病などに関わる基礎研究にも業績を残した。</p>
渡邊 貴之	<p>独立行政法人 家畜改良センター 鳥取牧場 業務課 繁殖技術係長 多頭化した黒毛和種繁殖牛の飼養管理に代謝プロファイルテストを取り入れ、これをもとに飼料設計および飼料給与体系を改善することにより繁殖性や子牛損耗率が改善することを明らかにした。また、この技術が飼料や放牧地の評価に利用可能なことを明らかにした。</p>

注：所属及び役職は、審査・選考時点のものを記載しております。